

## 和歌山県近世社寺建築の調査 (1)

### 建造物研究室

文化庁の補助事業として県単位で行う近世社寺建築緊急調査は全国をほぼ一巡し、今回、当研究所が担当した和歌山県は、最後に残された部類に属する。和歌山県は面積が広く、山間部がその大半を占め、社寺の件数も多いことから、昭和63年・平成元年度の2箇年にわたって調査を行うこととし、初年度は県北半部の旧伊都郡・那賀郡・名草郡・海部郡・有田郡の内、和歌山市を除く市町村を調査対象とした。和歌山県は西流又は南流するいくつかの河川によって開かれた谷に沿って集落が形成されており、流域毎に風土や文化が異なると考えられる。

現在の宗教法人数によって寺院の宗派毎の分布を見ると、同じ県内でも地域により大きな差がある。即ち、伊都・那賀郡と有田郡の山間部は真言宗が圧倒的に多い。これには高野山の存在が大きく影響していよう。名草・海部郡と有田・日高郡の海岸寄りには浄土宗・真宗が優位である。日高郡の山間部と西牟婁・東牟婁両郡はほとんどが禅宗で占められる。以上の三群にわかれるが、このことは流域よりもむしろ谷筋を横断して結ばれる文化圏の存在を想定させる。

さて初年度は、2次調査(調書作成・平面実測・写真撮影・史料調査)を196棟、1次調査(調書・写真のみ)を11棟について行った。以下に2次調査を行った建物の概要を述べる。

まず寺院の内、天台真言系では、真言宗の本山である高野山(高野町)が中世以来の伝統を持つ大寺であるが、度重なる回祿のため、少数の指定文化財以外に古い遺構は少ない。しかし幕末に復興された伽藍・本山の各建物は規模壮大なものが多く、方五間の多宝塔の西塔(天保5年)・本山大主殿(文久2年)等はその由緒と寺勢を窺わせる。高野山々下政所の慈尊院(九度山町)も多宝塔(17世紀前期)にその寺格を伝える。新義真言の本山根来寺(岩出町)では大伝法堂(文政9年)・光明殿(享和元年)がやはり幕末の大建築であり、不動堂(18世紀中期)が珍しく八角円堂(入側は円形に長押を廻らす)である。長保寺(下津町)も国宝本堂の伝統を継いでか徳川家御霊殿(寛文7年)が上質の建築として残る。国分寺本堂(打田町、宝永3年)は古代以来の平面の伝統をつぐ二重仏殿として注目される。これら以外の一般の寺院は三間堂が主流を占め、しかもその多くは内部を一室として架構もみせない単調なものが多いが、弘法寺本堂(高野口町、寛永頃)・施無畏寺本堂(湯浅町、貞享3年)は内外陣にきっちり区分する珍しい例。満福寺本堂(美里町、享保20年)・歓喜寺観音堂(金屋町、正保5年、但し浄土宗)・施無畏寺本堂は架構を見せる例であり、法華寺本堂(有田市、明和4年)では小組格天井の格縁に地紋彫りを施すなど、各々工夫はみられる。また、真言宗の三間堂では側面後方に真言八祖像をかけ、腰長押を打ってそこに供物を置く形式が多くみられる。灌頂堂等に真言八祖画像を架けることは中世から知られるが、その形が正式のものとして守られ、近世の遺構に受け継がれたのであろう。

新仏教系では、真宗が県北部に多いものの江戸中期以前の遺構が少なく、浄満寺本堂(有田市、

貞享4年)が右余間の床の低い左右非対称な平面をもつ珍しい例で、本勝寺本堂・真楽寺本堂(湯浅町, 18世紀前期)が内部に腕木を用いた珍しい構造の遺構としてあげられるほかは特筆すべきものが少ない。これに対し浄土宗は、得生寺本堂(有田市, 寛永5年, 18世紀後期改造)・常楽寺本堂(有田市, 18世紀後期)・深専寺本堂(湯浅町, 寛文年間, 伽藍も整う)・大乘寺本堂(吉備町, 18世紀後期)等大規模な本堂の多いのが注目され、特に深専寺は建立年代が古く、木太い角柱を一間毎に多用する上質の遺構として評価できる。時宗寺院は県内には2法人しかないが、その内の浄土寺(海南市)は本堂(延宝2年)が古式な結界を残し、観音堂(18世紀後期)・表門(安永元年)ともども群として良質な遺構がそろそろ。日蓮宗も県内には少ないが、妙台寺祖師堂(海南市, 18世紀中期)が大規模で、しかも正面を中敷居で結界するこの宗派の定型を守り、隆昌寺本堂(貴志川町, 文化12年頃)が内陣正面を中敷居で結界する末寺本堂の例として注目される。

外陣奥行を柱間の広い一間とし、化粧隅木を虹梁上内陣寄りで受け、内陣正面側に幅の狭い小天井を設けるという中世以来和歌山県で集中してみられる架構方式が、近世になっても残っており、神願寺本堂(かつらぎ町, 文政13年)・禅定寺本堂(下津町, 宝暦4年)等にみられ、その簡略化した形は前記本勝寺・真楽寺等でも用いられている。

神社では野上八幡宮・広八幡神社・三船神社など重要文化財のある大社の境内にその伝統を引いた古式な様式の近世殿舎が多くみられると共に、旦来八幡神社・藤白神社(共に海南市)、隅田八幡宮(橋本市)、東田中神社・西田中神社(打田町)、名手八幡神社(那賀町)、荒田神社(岩出町)、宝来山神社(かつらぎ町)、御霊神社(吉備町)などに良質の社殿が残る。しかもその多くは複数の社殿が併立することが多い。本殿の構造形式は春日造(28棟)及び流造(14棟)が多数を占め、春日造では四分の一が隅木入、流造では二間社と三間社がほぼ同数であって、二間社が多いのが珍しい。流造は一般には前室のない形だが、相賀神社本殿(橋本市, 19世紀前期)のような例外もみられる。また、拝殿は桁行の長大な割拝殿で「庁」と呼ばれている。建物そのものの建築年代は新しいが、中世の長床の伝統を受け継ぐものであろう。

この他別表の通り、県内には未指定の中世の遺構が少くない。棟札の残存状況も良好であるが、概ね近辺の大工が建立している例が多く、藤白神社の中村新平のような藩の大工が関与するもの、大顔神社(吉備町)のように大坂の大工の係わる例は限られている。(山岸 常人)

和歌山県内未指定中世社寺建築遺構一覧

建物名	所在地	建立年代	構造形式	建物名	所在地	建立年代	構造形式
薬師堂厨子	かつらぎ町	14～15世紀	三間向唐破風造	西田中神社羊宮神社本殿	打田町	16世紀中期	一間社隅木入春日造
阿弥陀堂	清水町	15世紀	方三間宝形造	長楽寺仏殿	吉備町	天正5年頃	三間裳階付禅宗仏殿
福勝寺本堂	下津町	15世紀後期	方三間寄棟造	地藏堂	花園村	天正17年	方三間入母屋造
雨錫寺阿弥陀堂	清水町	永正11年頃	方五間寄棟造	上岩出神社本殿	岩出町	文禄3年	三間社流造
金剛峯寺女人堂	高野町	16世紀中期	桁行五間寄棟造	東田中神社旧竹房神社本殿	打田町	16世紀後期	一間社隅木入春日造
十二社権現社本殿	桃山町	16世紀中期	一間社春日造				